福部未来学園新聞（ふくべみ～らいがくえんしんぶん）

各学年がテーマ別に取り組む「みらい」学習

福部未来学園には「みらい」という他の学校にはない教科があり、次のような学習をする。

福部駅前リニューアル整備作業のお手伝いでシバザクラの苗を植える８年生

魅力を学び地域に誇り

３年生は、地域の梨園の方にお世話になり、２回の袋掛けや収穫を行う。収穫した梨を家に持ち帰って、家族と食べるのを楽しむ。

４年生は、砂丘の生き物や植物、環境などについて学習する。２月には、「砂丘検定」を受け、みんなが砂丘博士を目指す。

５年生は、地域の産業の一つである米作りを体験する。田植えや収穫を行い、収穫したもち米を使い餅つきをする。

６年生は、伝統芸能「砂神太鼓」を学んだり、地元の店とコラボレーションした経営体験「キッズカフェ」をしたりすることで、地域の方の思いにふれる。

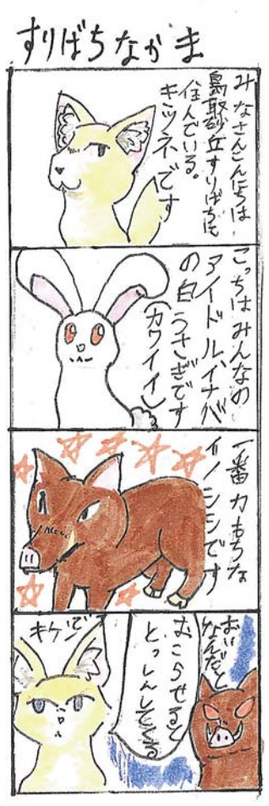
７年生は、特産物のラッキョウを中心にそれに携わる人々の思いや、ラッキョウを広めるための取り組みを学ぶ。

８年生は、持続可能なまちづくりのために福部の魅力や課題を見つける活動を通して、その魅力を情報誌にして発信する。

９年生は、今までの「みらい」の学習を振り返り、自分でテーマを見つけ、一人一研究をする。

地域の産業や観光、人々の取り組みから学ぶことによって、生まれ育ったふるさと福部に誇りを持ち、もっと好きになることができる。

鳥取砂丘のハマゴウの香りを嗅ぐ４年生



学校概要

【学校名】鳥取市立福部未来学園
【所在地】鳥取市福部町高江188
【校長名】藤原憲道
【学園生総数】226人（園児・児童・生徒）
【学園憲章】
○わたしたちは、人として正しい行動をします。
○わたしたちは、将来に向けて勉強・運動に励みます。
○わたしたちは、思い合う心で、人々との絆を結びます。
○わたしたちは、福部に誇りをもち、福部の未来を創ります。

【教育目標】
志をもち、自分で考え行動する子の育成～ふるさとの未来を拓き創造する福部の宝～

【沿　革】
2018（平成30）年度
福部未来学園幼稚園、小学校、中学校が統合し、福部未来学園幼稚園・義務教育学校開校（施設一体型幼小中一貫校）
19（令和元）年度
第30回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰、「学園憲章」制定
20（令和２）年度
児童生徒用iPad（全員分）整備
22（令和４）年度
６年生から新制服の導入（ブレザー型、ジェンダーレス化）、中庭「ひまわり広場」リニューアル

10学年が一堂に「全校行事」

運動会

縦割り４チーム優勝目指し白熱

息を合わせてあと少し。ゴールは目前

さくら組から9年生までの10学年が一堂に集まって2022年9月10日、運動会が行われた。運動会では、赤、青、黄、緑の縦割り班チームで徒競走やリレーなどで優勝を目指した。

どの学年も演技のために、夏休み明けからほぼ毎日練習に取り組んだ。高等ブロックの6年生から9年生は、「ダンスバトル」でそれぞれ縦割り班に分かれ、ダンスの曲から構成、振り付けまでを自分たちで考え、練習を積んで当日披露した。

中等ブロックの南中ソーラン踊りや初等ブロックのジャンボリーミッキーのダンス、さくら組のマーチングなども同じように練習に取り組み、演技をした。

この運動会には、数年前から福部らしい競技がある。「ラッキョウコンテナリレー」という高等ブロックの競技だ。生産が盛んなラッキョウを運ぶ時に使うコンテナをねこ車に乗せ、持ち手をそれぞれ別々の人が持ち、リレーしていく競技である。

最初は一つのコンテナだが、リレーが進むにつれ個数が増えていき、難易度が上がってくる。当日は、何度もコンテナを崩しながら、力を合わせて最後まで頑張った。

文化祭

６年が砂神太鼓に挑戦

さくら組から9年生までが日頃の学習の成果や演技を発表する文化祭が2022年11月3日、開かれた。今年のスローガンは、「Let's go 福部～みんな輝ける最高の思い出に～」。コロナ禍で、初等、中等、高等と三つのブロックごとに入れ替わりながら発表した。会場に集まれないブロックは、各教室よりリモートで鑑賞した。

６年生は、「福部砂神太鼓」に取り組んだ。この太鼓は、「ふくべ砂神太鼓実行委員会」の指導のもと行われた。６年生は、文化祭の1カ月以上前から週に1、2回、委員会の方に教えてもらいながら練習に取り組んだ。途中、手にまめができ、ばちが持てなくなったり、筋肉痛で腕が上がらなくなったりしたこともあった。

本番当日は、朝からみんな緊張していたので、掛け声をかけて気持ちを一つにした。そして、静まり返った会場の中、今まで練習してきた成果を十分に発揮。スローガンのようにみんなが輝く最高の思い出になった。

福部砂神太鼓を披露する６年生

全校遠足

縦割り班で鳥取砂丘の清掃活動

清掃やお弁当、砂丘で交流

さくら組から9年生までの10学年が2022年5月20日、鳥取砂丘まで遠足にでかけた。赤、青、黄、緑の縦割り班で、さくら組と9年生、1年生と8年生、2年生と7年生という具合にペアを作り学校を出発。ラッキョウの収穫時期と重なり、砂丘への道中は、ラッキョウのにおいに包まれた。

砂丘のオアシス広場に到着後は、縦割り班ごとに集まり、自己紹介をした。その後は、砂丘の清掃活動を行った。プラスチックやガラスの破片などいろいろな種類のごみを拾うことで、改めて環境問題について考えるきっかけとなった。このとき拾った流木は図画工作の学習で、流木アートの材料に活用した。

その後、オアシス広場に戻り、縦割り班で弁当を食べたり、広場で遊んで過ごした。春の陽気の中、久しぶりに思い切り体を動かせた一日となった。

6年生が作った新聞です

奥で梨入り「もなか」を作り、手前で商品を渡す6年生

旧校舎でキッズカフェ

6年生　地元企業とコラボ特産入りメニュー

６年生が中心となり、2022年11月19日、旧校舎でキッズカフェが行われた。キッズカフェは、今年度で３年目になる取り組みで、６年生と地元の企業がコラボし、地元の食材を生かしたメニューを考案し、販売する。

初年度は弁当を、２年目の21年度はサンドイッチを考案した。これらには、福部の特産のラッキョウやお嬢サバを食材に使った。しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大したため、販売を断念した。そこで、今年度は前年のメニューを引き継ぐ形で実施し、さらに、新たにデザートとして、福部特産の梨を入れた「もなか」を販売することにした。

６年生は、当日に向けて、チラシを作成したり、各商品のポップや会場の飾りつけなどを工夫したりしながら、準備をした。

当日、開始と共に多くの保護者や児童生徒が来場し、一時は20㍍近い行列ができるほどであった。準備していた商品もほぼ完売した。

６年生は販売前、不安と期待が入り交じった表情であったが、受け付けをした６年生は「たくさんの人が来てくれたので、とても忙しかったけれど、自分たちが考えた商品が売れて、うれしかった」と感想を述べた。

6年生　仕事体験や歴史を見聞

3年ぶり関西研修旅行

清水の舞台から景色を見ている児童

6年生は2022年7月11、12日の2日間、関西方面へ研修旅行に出かけた。20年と21年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、県内での研修旅行となったが、今年度は3年ぶりに県外での実施となった。

1日目は、兵庫県西宮市の「キッザニア甲子園」を訪れた。いくつかのチームに分かれ、興味ある仕事を体験。実際に体験してみると、仕事の大変さを感じることができた。その後、奈良の東大寺に向かった。教科書や本では見たことがあったが、実際に見てみると、その大きさに思わず声を上げた。公園のシカの数にも驚いた。

2日目は、京都の宇治の平等院を訪れ、左右が対象になっているその姿はとても美しかった。最後に清水寺に行った。寺への坂道の人ごみの中、寺が近づくと遠目にも朱色の鮮やかな塔が目を引いた。国内最大級といわれる「清水の舞台」から見た景色は、今でも心に残っている。

この2日間で、集団行動を身につけたみんなと協力して思い出を作ることができた。同時に3年ぶりに県外に行くことができ、感謝の気持ちでいっぱいだった。

3年　梨づくり「丁寧に」

梨の大袋かけをしている３年生

学園校区の山湯山では、梨の栽培が盛んである。2022年も3年生が、校舎の裏山にある「安田農園」で梨づくりの体験をした。

まず、5月17日に小袋かけを行った。害虫や鳥から梨を守る大事な作業だ。最初は恐る恐るやっていた3年生だったが、慣れてくるとどんどん袋かけを行い、300枚近くかけた。針金を付けるところや、袋をウサギの耳のようにするのが難しかったと感想を述べた。6月16日には、大袋かけを行った。1カ月で大きくなった実に驚きながら、今度は丁寧に袋をかけていった。

そして、9月15日に楽しみにしていた梨狩り。安田さんから「梨の実をぐりぐりとねじって、上に持ち上げて採る」ことを教えてもらい、大きな実を選びながら採っていった。大きな実を落とさないで採るのは大変だった。収穫した梨は、家に持ち帰り家族で食べた。みんな、福部の梨のおいしさを改めて感じ、とてもうれしくなった。

ラッキョウ作業体験

6年生 さくら組 7年生

ラッキョウを漬け込んでいる7年生

福部といえばラッキョウと言われるほど、町の重要な産業だ。6年生とさくら組は2022年8月26日、ラッキョウの植え付けに汗を流した。

当日は、JAの方に植え方を教えてもらいながら、苗を1本ずつ丁寧に植えていった。まだ時期的に残暑の厳しい時期で、汗をかきながら行った。この後、農家の方に水やりや除草作業などの管理をしてもらい、23年7月に7年生になった私たちが収穫する予定である。

そして、7年生は、21年に植えたラッキョウを7月5日に収穫した。前年度自分たちが夏に植えたものである。大きなスコップで周りを掘ってから、抜いていった。収穫したラッキョウは、ハサミで根切りをしてコンテナに入れ、学校に持って帰った。丁寧に洗った後、湯通しをして、大きな瓶に入れ、甘酢に付け込んだ。しばらくしてから、一人ずつ瓶に分けて、家に持ち帰り、福部のラッキョウを楽しんだ。

郷土のラッキョウ農家の仕事の大変さを感じるとともに、すばらしさを再確認した。

編集後記

私は、キッズカフェの新聞を担当しました。初めは、どんな文をどんな順番で書けばよいか迷って、なかなか書き進められずにいました。事前に新日本海新聞社の方に教えてもらっていた書き方を思い出しながら、「正確に正しい内容を伝えられるようにしよう」を目標として仕上げていきました。教えていただいたことを意識すると、楽しかった思い出が浮かぶような記事ができたと思います。読んでもらう方に福部の魅力が伝わればうれしいです。　（倉持結衣）